

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010361

政策目標	4 つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	1 災害予防対策・危機管理対策の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	オタコムシュベツ川改修事業	見直し年度		
事業期間	平成26年度～平成29年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	河川改修面積		#N/A	
事業目標	A=514m,L=500m	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全体計画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	
計 画 内 容	護岸工 A=514㎡ 土砂除去 L=500m		護岸工 A=120㎡	護岸工 A=128㎡	護岸工 A=116㎡	護岸工 A=150㎡ 土砂除去 L=500m	
	事業費(千円)	33,400	0	6,000	6,700	7,300	13,400
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	33,400	6,000	6,700	7,300	13,400		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	19,440	0	5,832	6,480	7,128	0
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	19,440	5,832	6,480	7,128			
特定財源の名称 (H29～基金対応)	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等) 護岸工 A=120㎡	(実施内容等) 護岸工 A=128㎡	(実施内容等) 護岸工 A=116㎡	(実施内容等)	
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	
前期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値		120㎡	128㎡	116㎡	150㎡、500m	
第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	#DIV/0!	97%	97%	98%	0%	
	全体達成率	0%	17%	37%	58%	58%	
	備考欄						

事業名	オタクムシュベツ川改修事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成28年度実施
平成29年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	河川	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	補修河川数
【抱える課題やニーズは】	豪雨、融雪出水に伴う河岸崩壊による背後地への被害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	豪雨、融雪出水に伴う河岸崩壊による背後地の被害の未然防止	① 補修河川数/補修河川数	目標年度 平成28年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	河岸を改修による背後地の被害の未然防止		目標値 116 m ²
			実績値 116 m ²
		②	達成度 100.0 %
			目標年度 平成28年度
			目標値
			実績値
			達成度 #DIV/0! %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①民間業者による工事の実施	入札により、民間業者に工事を発注し、河川改修を実施した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町管理となる河川の河岸決壊による背後地の被害防止は、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	河川改修を実施したことにより、背後地の被害を未然に防ぐことができた。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	背後地の被害を未然に防止できたことは、事業費の抑制となり、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	背後地の被害を未然に防止できたことは、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
背後地の被害を防止するためには、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
背後地の被害を防止するためには、今後も計画どおり事業を進めることは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止